

# 青少年海外派遣事業報告

楽しかった、そして、成長した夏の思い出：



平成19年度青少年海外派遣事業に参加した、市内の中学1〜3年生までの感想文を抜粋して掲載します。生徒たちは、文化や習慣の違いなどどのような気持ちで過ごしたのか、また、今後何をしたいかなどを書いていきます。

## 川内北中学校

3年生 有馬美穂

ホームステイが始まると英語ばかりの世界で、みんなが話す言葉も分からず「もう日本に帰りたい」と思いました。でも、過ぎていくうちにそんな思いはまったくなくなり、毎日充実していき楽しい生活を送れるようになりました。英語で会話ができなくても「積極的に伝えようとする気持ちがあれば伝わる」とそう思うようになったからです。今後は、もっと英語を上達させてもう一度私の「家族」と会い、心から恩返ししたいと思います。

この事業は、アメリカの一般家庭にホームステイしながら、市民生活、社会生活を体験し、異文化学習と国際感覚の育成を図る内容になっています。

具体的には、月・火・木・金の午前中の3時間は英語を使って、アメリカの文化や生活習慣についての授業を受けます。午後からは社会見学、文化交流会、ボランティア活動、レクリエーションなどを行います。

また、週に1回は、有名な観光地や国立公園などを視察研修し、週末には、各自ホストファミリーと一緒に過ごします。

●問合先 本庁社会教育課 青少年教育G (内線5421)



ホストファミリーからのプレゼント (左が有馬さん)

## れいめい中学校

3年生 石田真子

ホームステイ先に向かうときは一人きりになり、頼れる人もなくどうやって会話を乗り切る

か頭をフル回転させていました。数日間は辞書を活用していましたが、徐々に何について話しているのかが分かるようになり、少しリスニング力が身に付いたかなと思っています。今後は、この経験を生かして、外国の方が近くに訪れたときには気持ちを理解して、親切に接し、日本の文化や名所の案内役として接していきたいと思っています。

私のホストファミリーは、子どものいない若い家庭でした。その分、私にとっても優しく接してくれて、充実した1カ月を過ごすことができました。多くの観光地などに行ったりしてたくさん思い出ができました。こ



かわいいホストファミリーの子どもたちと (後列右が石田さん)

## 入来中学校

3年生 池頭咲里

私のホストファミリーは、子どものいない若い家庭でした。その分、私にとっても優しく接してくれて、充実した1カ月を過ごすことができました。多くの観光地などに行ったりしてたくさん思い出ができました。こ



電車みたいな乗り物で先生と (中央が池頭さん)

## 川内中央中学校

2年生 長嶺秀平



スタディーセンターでの休み時間 (前列左から2番目が長嶺さん)

週に4日、スタディーセンターで授業がありました。授業はとても楽しく、毎日行くのが楽しみでした。休み時間には、友達と生活の中で発見したことを

を教え合ったりしました。毎日がとても楽しかったので、日にちが過ぎるのがあつという間でした。僕は参加してアメリカと日本の違いや、日本の良いところや悪いところ、アメリカの文化など一言では言い表せないくらい多くのことを学び、知ることができました。

## 樋協中学校

1年生 加治屋光

とにかく辞書を開いてはジェスチャーを何回も繰り返したりして自分の気持ちを伝えました。ホストファミリーも頑張ってくれて分かっていました。この時言葉は通じなくても心と心で通じ合えるんだと強く感じました。食事は、日本では毎日当たり前のようにご飯やみそ汁を食べられているので、まったく違う生活に慣れることが苦しかったです。今後は、英語の勉強も頑張り、学んだことを生かし少しずつ自立していこうと思います。



ホストファミリーと初対面のとき (前列右が加治屋さん)